

## 甲子園を目指して



福井県大野市 山本 幸子

主人は脳内出血で右上下肢機能障害および言語機能障害を持って五年になります。現在は週六日間デイサービスでお世話になっております。子供の頃から阪神ファンで、毎年甲子園へ野球観戦に家族で行っておりました。倒れて以来テレビで見ているだけなので甲子園へ行きたがりますが、福井から連れて行くのはとても勇気がいる事です。まず、昨年福井での試合を見に行つて来ました。思ったより大変な事もなく球場関係者の方も親切で、主人は大喜びしましたし一緒に良かつたと思いましたが、この事で「甲子園へ連れて行くのか？」と家族で話し合い、「何とかなるさ」私は決して

楽天家ではないけれどプラス思考で行こう、主人はこの病気になりたくてなったのではない、恥ずかしい事でもない、私は何時でも有りのままを人様にお話しをして、出来る限り外へ連れて行き多くの人に会おうようにしています。それを主人も望んでいるからです。こうしてチケット取りを始めました。車椅子席と家族席と八枚のチケット取りは大変でしたが・・・さあこれから九月二十日の甲子園行きまでに体調を整えて元気に出掛けるための準備が始まりました。センターの職員さん達も「甲子園へ行くこと」を合い言葉にリハビリや言葉の訓練に一生懸命取り組んで下さいました。今の状態は

膝が折れるため大腿部からの補装具を付けて、安全のため腰にベルトを巻いて男性職員さんが支えて下さり、前には看護師さんが声かけしながら常に安全な状態を保ちながら二人がかりで歩行訓練をして下さいます。これまではホール内を三、四周歩くのがやっとで「今年中に六周歩けるように、を目標に頑張っていきたいと思います」と看護師さんがおっしゃっていましたが、なんと六月には七周を軽くクリアしてしまいました。言葉もリハビリ前には「お願いします」終わると「有り難うございました」と言えるように、毎日、毎日、職員さん達が努力して下さい、今では言葉の数も増えてきております。本

人に少し先の目標を持たせて、やる気を起こさせると少しずつでも前進する事が良くわかりました。それには介護する側が急がず焦らず諦めずにかかわって行く事ですね。私の思いをきちんと受け止めて介護される人の心に寄り添って毎日介護に当たり訓練して下さる職員さん達に感謝しております。介護をしている時にはイライラしたり逃げ出したくなる時も正直言つて有りますが、自分一人で抱え込まないで色々な人の助けをお借りしながら、自分の時間を持ち心を穏やかに安定させる事で優しく介護出来るような気がしております。四月から始まった「甲子園を目指して」のリハビリも順調よく進み、いよいよ甲子園行きです。九月二十日早朝より出発、途中サービスエリアでトイレ休憩、思ったよりきれいで優しい造りで使い良く安心、再度出発、二時間ほどで夢の甲子園へ到着、車椅子より見る甲子園球場は主人の目にはどのように写ったのだからか？じっと見つめている目が少しうるんでいるようだった。言葉が出ないので何を思ったか心の内を知る由もない……。係の人の親切な誘導で球場内へ、大観衆の中、車椅子席へ、広々として安全に配慮され特等席、鮮やかなグリーン芝生が目飛び込んで大応援が始まり、いよいよ試合開始、お弁当を食べながら試合観戦、途中トイレへ、係の人が案内して下さり待たずに個室トイレへ、広々としてどんな障害者にも対応出来る造りになっていて安心して使用できました。試合も今年最高の試合で勝ち、廻りの人達も気軽に握手を求めて下さったりして主人も大喜びでした。今回不安をかかえながらの甲子園行きでしたが、障害者に対してとても行き届いた配慮がなされていて、特別待遇で楽しく安心して野球観戦ができました。勇気を持って行って良かった、明日をも知れぬ命だった事を思うと今があるのが夢のようです。「不自由でも生きて行

きなさい」と言う事だと思って、多くの人達の支えを戴きながらこれからも共に人生ゆつくり歩いて行きたいと思っております。今回甲子園球場で出会った人達や立ち寄った近くのスーパーで出会った人達は皆さん私達に対して自然に当たり前のように道をゆずって下さったり、エレベーターの扉を開けて待つていて下さり声かけをして下さったりで都会の人は障害者に対しての思いやりが違う事も嬉しい発見でした。主人が倒れた事で私達の人生は大きく変わりましたが、元気でいたならば出会わなかったであろう多くの素晴らしい人達に出会えた事で私の価値観や人生観が大きく変わりました。私達を支え続けてくれた家族は元より、多くの人達の温かいお心に感謝、感謝です。